

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年9月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1193900014
法人名	社会福祉法人 さきたま会
事業所名	羽生市もくせいの里
所在地	〒348-0022 埼玉県羽生市下手子林691-2 (電話) 048-565-1175

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年9月5日

## 【情報提供票より】(平成20年8月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 3人, 非常勤 4人, 常勤換算	4.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000円 ~ 30,000円	その他の経費(月額)	17,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日あたり 円			

### (4) 利用者の概要(8月19日現在)

利用者人数	6 名	男性	4 名	女性	2 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	73 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	神山クリニック、松村歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、個人の住宅が改築されたものだが、その一部には格調高い日本庭園がありよく整備され、四季折々を楽しむことができる。理念には、人格尊重を基本として「心豊かに思える暮らしを」を掲げ、職員一人ひとりが心のこもった支援をしている。食事においても利用者と職員が準備や片付けなどを可能な限り一緒に行っている。敷地内にある菜園では、野菜や花などを栽培して趣味に興じる利用者もいる。また、行政との連携が密に行われており、利用者へのサービスの向上につながっている。近隣の小学校から運動会に招待されたり、地域行事への参加や日常の散歩等を通じて、積極的に地域にかかわり溶け込むようにしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題については、職員全体で検討し改善できるものは改善し、継続中のものもある。理念という文言の表示については、パンフレットに入れるなど工夫している。また、同業者との介護職員の交流については、県のグループホーム協議会の研修会などに参加し、徐々に外部との交流を行っているところである。運営推進会議については、地域密着型のホームとしては設置の必要性を認識し、関係者が集まる場所等で理解を得る努力をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で自己評価に取り組んでいる。職員一人ひとりが各項目について問題点を共有し、それを計画作成者がまとめるなどしてサービスの向上につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の設置については、ホームが地域密着型であることから、地域及び関係機関などに理解を得るべく努力をしているところである。行政との連携を図りながら、利用者へのサービスの向上等については話し合いが持たれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談機関を明示して説明を行っている。また、来所時に金銭管理の状況や利用者の直近の様子を話し、そのやり取りの中で意見や要望などを聞いている。健康に関する要望があるため、近くの協力医院や同法人の特別養護老人ホームの看護師と連携を密にとっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くの小学校の運動会に招待されて参加したり、地域の福祉行事や老人会への参加等を通じて地元の人たちと交流している。日常の散歩時には、小学生や近くの人たちと挨拶を交わしたり会話が自然に行われている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの個性を尊重し、地域の中で充実した生活をするを目標とした理念が広告物等に記されており、地域密着型の理念と合致した事業所独自のものとなっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がスタッフルームに掲示されている。また、ケース会議等の職員が集まる機会には、まず最初に理念の確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の運動会には毎年招待を受け、種目によっては参加もしている。敬老会や福祉祭りに参加したりボランティアの受け入れも行いながら地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に当たっては職員全体で取り組み、改善等について話し合い解決のための努力をしている。また、外部評価については、異なった視点からの改善点として職員全体で考え、利用者にとってより充実した方向にいくよう努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政側との連携により利用者へのサービス向上等について話し合いは行われているが、運営推進会議は設置されていない。		運営推進会議の設置の意義や位置づけをホームとして確認し、関係者が集まる機会に話題に出すなど繰り返し働きかけ、運営推進会議が設置されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス内容の変更などがあった場合には、行政に報告するなどして連絡を取り合いながら、利用者のサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の家族が皆頻繁に来所されるため、そのつど直近の利用者の健康状況や行事への参加状況を報告している。また、1か月分の金銭管理についても家族の来所時に定期的に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談機関を明示し、その説明を行っている。また、来訪時には、利用者の健康状態等を伝えるとともに、要望や希望などを聞いている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員の異動等については、利用者の状態によって異なった対応をしており、家族には前もって話をして本人にどの段階で伝えたいかがいいか相談しながら決めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は同一法人内で必ず実施している。段階別研修については、勤務ローテーションを工夫し、内部研修とあわせて外部研修にもできるだけ参加するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域福祉祭りや交流会に参加することでネットワーク作りに努めている。また、ケアマネージャー間の交流は密に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用に際しては、利用者や家族に前もって見学してもらい、十分検討したうえで利用の可否を決めてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や趣味を把握し、野菜作りや絵画、習字等、利用者から学んだり教えたりしながらお互いに支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の動作や家族との話し合いの中で、本人の希望の把握に努めている。把握困難な利用者については、生活歴や関係者の意見を参考にしながら思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケース会議を開き、利用者が望むケアについて多くの職員の意見や利用者、家族等から話を聞き、これを基にしてケアマネージャーが介護計画を作り上げている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行うとともに、利用者には何か変化があった場合にはそのつど計画を見直している。なお、見直しを行う際は、職員、利用者、家族等の意見を基にして見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの特別養護老人ホームと連携をし、行事等の参加や外出支援など柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の希望を聞くようにしている。入居前のかかりつけ医による受診を希望する場合は、希望の医療機関を優先して受診できるように支援している。また、ホームの協力医師にも相談できる関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、家族等には重度化した場合の対応について十分に説明し、職員間でも方針を共有するようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに人格を尊重した言葉かけをしている。また、居室には名前を表示せず、入室時はノックする等日頃から利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、散歩や買い物等、本人の選択する意思を大切に、一人ひとりの希望やペースに沿った支援ができるように努めている。食事においては、利用者の好みのもを聞くなどして、一緒に外出に出かけることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等については、職員と利用者が可能な限り一緒に行っている。食事の際もひとつのテーブルを囲み話しを楽しみながら食事出来るように支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則週3日、夕食後に入浴の支援をしている。なお、入浴前にはバイタル測定を行っている。季節に応じてレモン、ひば、りんご湯等の薬浴を取り入れて香り等を楽しんでいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、絵画、習字等を通じて利用者一人ひとりの経験や知恵を日々の暮らしに活かし、喜びや張り合いのある生活になるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外気浴等、可能なかぎり利用者が戸外に出かけられるように支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則施錠はしない。職員は利用者一人ひとりのその日の状態や行動を細かく把握し見守りしながら、鍵をかけない自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと定期的に避難訓練を行っている。地域の人たちの見学や参加、協力を得ての訓練までには至っていない。		非常時には地域の人たちの協力が必要となるため、今後も継続して地域への働きかけを行って協力を体制を整備することが望まれる。消防署が参加する訓練では、地域の人たちの見学や参加を得られるよう工夫されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量を確認し、毎日記録をとることで、職員間で情報を共有できるようにしている。また、状態に応じて器なども変えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花や植物、利用者の作品や写真が掲示され、居心地よく過ごせるように工夫がされている。縁側からは広い日本庭園が鑑賞でき、よい空間が確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベットが設置されており、馴染みのある使い慣れた家具や日用品もあり、また自分の作品等も飾ったりすることで居心地よく過ごせる工夫がなされている。		